

(2) 「寄宿御免

(269)×(120)×9 011

広島・草戸千軒町遺跡

(1)は、日蓮宗の護札で、墨書を避けた中程に鉄釘が遺存・貫通し、屋敷柱に打ち付けられていたとみられる。墨書は、末尾が極端に跳ねるヒゲ題目を中央に配し、「除災安全」を続けている。上左右の「両天」と「一一□王」は合わせて四方仏（四天王もしくはその代用）を示すものであろうか（「一一□王」は、「二尊王」「二明王」または「二聖」の可能性がある）。中左右の梵字（種子）は、未確定であるが、釈迦と多宝如来を示しているのである。「十羅刹女」「三十番神」の存在なども含め、全体として日蓮宗独特の教義に基づく護札の構成を示す良好な資料と言えよう。

文献史料から、宇喜多（小早川も）家中には、かなりの重臣を含め、日蓮宗信徒が数多くいたとされているが、本資料はそのこととも適合する。

(2)は継板に書かれていたものの一部で、四文字の左と下への連続は不明である。疫神の寄宿を避ける護札であろうか。

以上のはか、金箔鬼瓦と同じゴミ穴からも墨書のある小板片が出土しているが、判読は今のところ困難である。

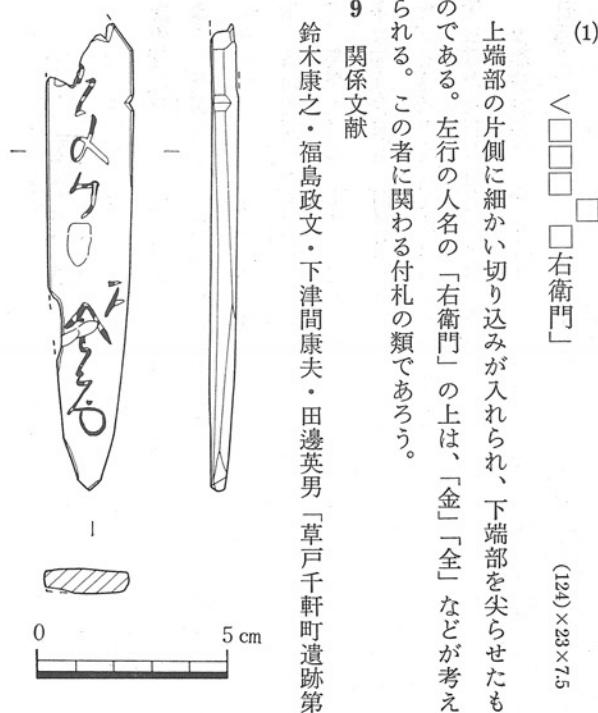
（乗岡 実）



第44・45次調査位置図

1	所在地	広島県福山市草戸町
2	調査期間	第四四・四五次調査 一九八九年（平1）一一月 一九九一年三月
3	発掘機関	広島県草戸千軒町遺跡調査研究所
4	調査担当者	代表 松下正司
5	遺跡の種類	集落跡
6	遺跡の年代	平安時代～江戸時代（中心は鎌倉・室町時代）
7	遺跡及び木簡出土遺構の概要	第四四・四五次調査区は、遺跡包蔵中州の北端部に位置し、東西四五～八五m、南北七〇mの約五〇〇〇m ² である。これまでの大規模調査の結果、中州北部は遺構面の削平が激しく、井戸を中心地中深く掘り込まれたものが残るのみである。今回の調査区も同様

1990年出土の木簡



鈴木康之・福島政文・下津間康夫・田邊英男「草戸千軒町遺跡第

上端部の片側に細かい切り込みが入れられ、下端部を尖らせたものである。左行の人名の「右衛門」の上は、「金」「全」などが考えられる。この者に関わる付札の類であろう。

9 関係文献

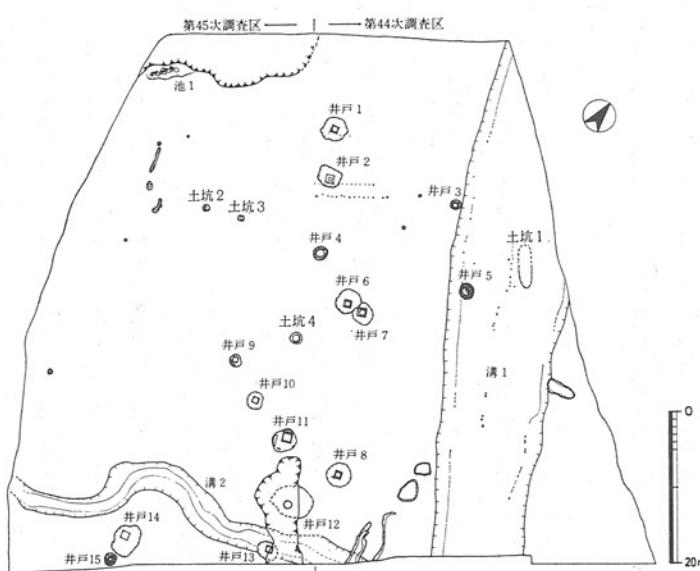
8 木簡の釈文・内容

(1)

(124) × 23 × 7.5

の状況で、各時代の井戸が計一五基検出されたが、若干の溝・土坑・池もあった。木簡は、室町時代後半の池一から一点出土した。この池は、北側が流水のため深く削平されており、一部の東西6m、南北2mを調査するにとどまった。石積の護岸を持つもので、その中には五輪塔空風輪が使用されていた。

四四・四五次調査略報』(『草戸千軒』二二三 一九九一年)
広島県草戸千軒町遺跡調査研究所『草戸千軒町遺跡—第四四・四五次発掘調査概要—』(『広島県草戸千軒町遺跡調査研究所年報一九九〇』一九九一年)
(下津間康夫)



第44・45次調査区遺構図